

【幻視の傷痕】梗概

東京で起きた轢逃げ事故で、妻を亡くした香月遼一は、同じ事故で失明という障害を負った一人娘杏螺（あんら）の治療に奔走していた。ある日、親友の秋葉から連絡を受け、F市に住む鍼の名医桜木謙一に治療を託すことになる。しかし、治療に行く直前、香月は自分自身が交通事故に遭い、頸椎損傷で長期入院を余儀なくされる。事故で助けた少女黒崎葵の父が見舞いに来るが、偶然にも高校の同級生とわかり、いまでは市長選にまで出る有力者となっている相手に香月は驚く。

入院先に轢逃げ犯の捜査に来た津田は、定年直前の刑事で、かつてF市で起きた前代未聞の「連続レイプ殺人事件」の被害者遺族でもあった。香月の妹もその被害者だった関係で二人は親子のような関係だった。

連続レイプ殺人事件は、二十三年前に五人の女子高校生がF市の霊園の森でレイプされ、マスコミの過剰報道が原因で、全員が連鎖的に自殺するという悲劇的な未解決事件であった。

折りしも、香月が入院する直前、同じF市で眼球と陰茎を切り取られるという猟奇事件が二件連続で発生した。被害者はレイプ事件の有力容疑者の二名だったことから、津田は独自に捜査を開始する。

一方、桜木もまたレイプ事件の被害者遺族だった。死んだ娘の日記（『幻視』という詩）でレイプ犯の正体を知った桜木は、元刑事の池上を仲間に入れて、復讐を果たそうと計画を実行していた。三人のレイプ犯人のうち、最後の一人に確信がもてず、誘導作戦と眼球を最後のレイプ犯に送りつけようと準備したが、治療を受けに来た杏螺らにその眼球を見つけられ、やむなく監禁することになる。

入院先を抜け出した香月は、单身、桜木の隠れ家を探しあてるが、レイプ犯が送った刺客に、桜木も香月も危うく殺されそうになる。

香月と桜木は執念で生き延び、ついに連続レイプ犯と対峙。

犯人を追い詰めていく。